

令和6年12月27日	
所 属	文化振興課
所属長	荏田 昭憲
電 話	06-6489-6385

A-LAB Exhibition Vol. 46「JIN, JIYAN, AZADÎ 女性、命、自由」を開催

1 趣旨

尼崎市では、アーツスペース「A-LAB」(えーらぼ)において、第2回白髪一雄現代美術賞を受賞した井上裕加里による展覧会「JIN, JIYAN, AZADÎ 女性、命、自由」を開催します。

井上は国内外でリサーチを行い、「世界の女性の地位の問題」などをテーマに制作を続けています。作家自身が抱いた疑問を、様々な境遇の人との対話を通して考察し可視化することで、複雑で矛盾に満ちた社会問題を鑑賞者とともに考える姿勢を貫きます。今回の個展では、イランでの滞在経験をもとにした近作・新作を中心に展示し、「女性、命、自由」を取り巻く状況や視点を提示します。

2 概要

会 期：令和7年2月1日(土)～3月30日(日)

会 場：A-LAB(尼崎市西長洲町2-33-1)

入場料：無料

時 間：午前10時～午後6時

※休館日：火曜日(2月11日は開館し、翌日水曜日休館)

出展者：井上裕加里

問合せ：尼崎市文化振興課

電話 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

主 催：尼崎市

3 関連イベント

《トークイベント》

北原恵氏(大阪大学名誉教授、ジェンダー研究)をゲストに迎え、出展作家と「アートと女性」について話をします。

日 時：2月23日(日) 午後2時～午後3時

《作品解説会》

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。

日 時：3月1日(土) 午後2時～午後3時

以 上



会期	2025 年 2 月 1 日 (土) ~ 3 月 30 日 (日)
開館時間	午前 10 時 ~ 午後 6 時
会場	A-LAB (えーらぼ) 尼崎市西長洲町 2-33-1
休館日	火曜日 * 2 月 11 日は開館、2 月 12 日は休館
入場料	無料
主催	尼崎市

開催要旨

第2回白髪一雄現代美術賞を受賞した井上裕加里による展覧会「JIN, JIYAN, AZADÎ 女性、命、自由」を開催します。井上は国内外でリサーチを行い、「世界の女性の地位の問題」などをテーマに制作を続けています。作家自身が抱いた疑問を、様々な境遇の人との対話を通して考察し可視化することで、複雑で矛盾に満ちた社会問題を鑑賞者とともに考える姿勢を貫きます。今回の個展では、イランでの滞在経験をもとにした近作・新作を中心に展示し、「女性、命、自由」を取り巻く状況や視点を提示します。

白髪一雄現代美術賞について

尼崎市では、既成概念にとらわれない前衛作品を発信し世界的に評価された本市ゆかりの現代美術画家・白髪一雄氏にちなみ、若手アーティストによる先駆的で魅力のある現代美術作品を顕彰し、若手アーティストのこれからの活躍を応援しています。第3回白髪一雄現代美術賞の応募締切日は、2025年3月21日です。詳細は尼崎市文化振興財団（TEL：06-6487-0806 / FAX：06-6482-3503）までお問い合わせください。

ステートメント

私は、近年の日本における婚姻制度や女性の地位に関する問題に関心を持っています。日本はジェンダーギャップ指数において他のアジア諸国の中でも低い位置にあります。しかし、この指標自体が欧米中心の価値観に基づいており、東洋における男女平等の実感とは異なる部分があるのではないかと疑問を抱きました。そこで私は2022年、ジェンダーギャップ指数が下位に位置するイランを訪れました。

イランで女性たちと交流する中で、彼女たちは強い結束力と豊かなネットワークを持ち、抑圧的に見られがちなヒジャブも、実際に纏ってみることで、女性としてではなく個人として尊重されるという異なる意味があることを理解し、中東地域に対する誤解があったことに気付かされました。

一方で、2022年にはヒジャブの不適切な着用を理由に道徳警察に逮捕された女性が死亡する事件が発生し、女性の人権が依然として軽視されている現実もあります。この展覧会では、2022年のデモで掲げられたスローガン「JIN, JIYAN, AZADÎ 女性、命、自由」をテーマに、この複雑な問題に向き合いたいと考えています。

井上裕加里（出展作家）

関連イベント

①トークイベント

日時：2月23日（日）午後2時～午後3時

ゲストに北原恵さん（大阪大学名誉教授、ジェンダー研究）をお招きして、出展作家と「アートと女性」について話をします。要申込。定員先着20人。

イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、
A-LAB（amalove.a.lab@gmail.com）までお送りください。

②作品解説会

日時：3月1日（土）午後2時～午後3時

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。申込不要。

広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ（※5～6ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、A-LABまでお申し込みください。

使用条件：

- ・広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
 - ・トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
 - ・アーカイブのため、後日掲載紙、URLなどをお送りください。
- 以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

A-LAB（午前10時～午後6時 *火曜日休館）

担当：田野、八木

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課（平日：午前8時45分～午後5時30分）

担当：山城、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

作家略歴

■井上 裕加里（いのうえ ゆかり）



Photo by Wataru SHINO

広島県出身

2012 年 倉敷市立短期大学 服飾美術学科 卒業

2014 年 成安造形大学 芸術学部芸術学科美術領域現代アートコース 卒業

私は、東アジアの近代化に潜在する歴史認識や文化観の差異、そしてそれらの関係性や地域性をテーマに作品を制作しています。他者・他国を排除する動きが世界で顕著化している今日、「他者」とは何か、「私たち」と「私たち以外」の境界とは何かを、作品を通じて考察しています。

【主な個展】

2017 年「堆積する空気」、Gallery PARC、京都

2019 年「線が引かれたあと」、KUNST ARZT、京都

2022 年「Women atone for their sins with death.」、KUNST ARZT、京都

【主なグループ展】

2013 年「ここはどこか、あるいは何か」、越山計画、札幌

2014 年 日韓交流展「add me! CARRY MORE」、韓国電力アートセンターギャラリー、ソウル、韓国

2017 年 京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search」大京都 in 舞鶴、聚幸菴、京都

2019 年「Parallax Trading」、das weisse haus、Vienna、Austria

2019 年「Kyoto Art for Tomorrow2019- 京都府新鋭選抜展-」、京都文化博物館、京都

2020 年「Kyoto Art for Tomorrow2020- 京都府新鋭選抜展-」、京都文化博物館、京都

2021 年「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立美術館、滋賀

2022 年「第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

2023 年「産まみ（む）めも」、oz studio 渋谷東、東京

【受賞】

2019 年「Kyoto Art for Tomorrow2019- 京都府新鋭選抜展-」ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川国際交流賞

2020 年「Kyoto Art for Tomorrow2020- 京都府新鋭選抜展-」ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川国際交流賞

2022 年「2021 年度 平和堂財団芸術奨励賞」美術部門

2022 年「第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」選考委員個人賞 植松由佳賞

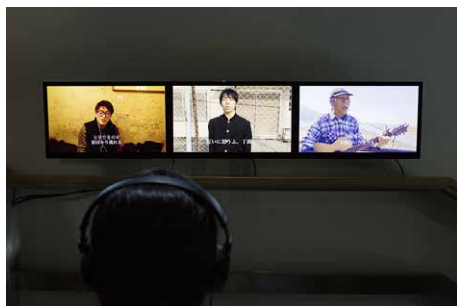
2023 年「第 2 回白髪一雄現代美術賞」

2024 年「サゴリリサーチアワード」特別賞 加納実紀代応援賞

【収蔵】

2023 年「こうさするこうえん」滋賀県立美術館

参考図版



1



2



3



4



5



6



7



8

参考図版



9



10



11



12



13

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1. 《Auld Lang syne》 2014 | 撮影：麥生田兵吾 |
| 2. 《marginal woman - 境界人 -》 2019 | |
| 3. 《grouping》 2021 | 撮影：麥生田兵吾 |
| 4-6. 《こうさするこうえん》 2021 | 撮影：麥生田兵吾 |
| 7-8. 《女性は罪を贖うために死ぬ》 2022 | |
| 9. 《Asian kitchen》 2022 | |
| 10-13. 《Shadow workes》 2022 | 撮影：木奥恵三 |

次回展

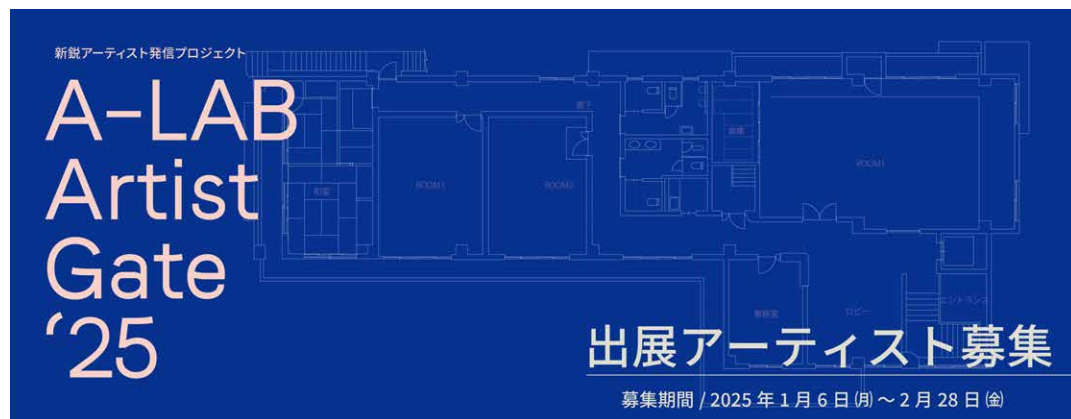
A-LAB Exhibition Vol.47

池原悠太 × Omult.Venzer 展（仮）

2025 年 4 月 26 日(土) ～ 6 月 22 日(日)

デジタルコラージュによって平面作品や映像作品を生み出す美術家、池原悠太と「遊びの延長」を理念とする、造形アートブランド、Omult.Venzer（オマルト ヴェンザー）による二人展を開催します。

お知らせ



A-LAB Exhibition Vol.49

A-LAB Artist Gate '25

2025 年 10 月 18 日(土) ～ 12 月 14 日(日)

本プロジェクトは、今後活躍が期待される若手アーティストによるグループ展として毎年開催しているもので、10 回目となる今回は令和7(2025)年の春に関西（大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県）の大学・専門学校を卒業予定、または大学院を修了予定の方を対象とします。平成 28 (2016) 年に初開催して以来、これまで 61 人のアーティストを紹介してきました。10 回目の節目を迎え、選考方法・出展条件を見直し、これまで以上に本展が若手アーティストたちの本格的な作家活動の一步となり、今後大きく羽ばたいていくことを期待します。

※ 出展アーティスト募集

募集期間 2025 年 1 月 6 日(月) — 2 月 28 日(金)



INOUE Yukari
井上裕加里

JIN, JIYAN, 女性、 AZADÎ 命、 自由



女性は罪を贖うために死ぬ | 2022

A
LAB

午前10時—午後6時 火曜日休館 入場無料

2025.2.1 土 — 3.30 日

井上裕加里

JIN, JIYAN, AZADĪ

女性、命、自由

第2回白髪一雄現代美術賞を受賞した井上裕加里による展覧会「JIN, JIYAN, AZADĪ 女性、命、自由」を開催します。井上は国内外でリサーチを行い、「世界の女性の地位の問題」などをテーマに制作を続けています。作家自身が抱いた疑問を、様々な境遇の人との対話を通して考察し可視化することで、複雑で矛盾に満ちた社会問題を鑑賞者とともに考える姿勢を貫きます。今回の個展では、イランでの滞在経験をもとにした近作・新作を中心に展示し、「女性、命、自由」を取り巻く状況や視点を提示します。



私は、近年の日本における婚姻制度や女性の地位に関する問題に関心を持っています。日本はジェンダーギャップ指数において他のアジア諸国の中でも低い位置にあります。しかし、この指標自体が欧米中心の価値観に基づいており、東洋における男女平等の実感とは異なる部分があるのではないかと疑問を抱きました。そこで私は2022年、ジェンダーギャップ指数が下位に位置するイランを訪れました。

イランで女性たちと交流する中で、彼女たちは強い結束力と豊かなネットワークを持ち、抑圧的に見られがちなヒジャブも、実際に纏ってみることで、女性としてではなく個人として尊重されるという異なる意味があることを理解し、中東地域に対する誤解があったことに気付かされました。

一方で、2022年にはヒジャブの不適切な着用を理由に道徳警察に逮捕された女性が死亡する事件が発生し、女性の人権が依然として軽視されている現実もあります。この展覧会では、2022年のデモで掲げられたスローガン「JIN, JIYAN, AZADĪ 女性、命、自由」をテーマに、この複雑な問題に向き合いたいと考えています。

井上裕加里（出展作家）

上 女性は罪を贖うために死ぬ | 2022

下 Shadow works | 2022 Photo: 木奥恵三

イベント

①トークイベント

2月23日（日）午後2時～3時

北原恵氏（大阪大学名誉教授、ジェンダー研究）をゲストに迎え、出展作家と「アートと女性」について話をします。

②作品解説会

3月1日（土）午後2時～3時

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。

場所 | A-LAB

①は申込制

定員 | 先着20名

申込 | メールにて
(amalove.a.lab@gmail.com)

※イベント名、氏名、電話番号、人数
を明記してください。

白髪一雄現代美術賞について

尼崎市では、既成概念にとらわれない前衛作品を発信し世界的に評価された本市ゆかりの現代美術画家・白髪一雄氏にちなみ、若手アーティストによる先駆的で魅力のある現代美術作品を顕彰し、若手アーティストのこれからの活躍を応援しています。第3回白髪一雄現代美術賞の応募締切日は、2025年3月21日です。

詳細は尼崎市文化振興財団（TEL 06-6487-0806 / FAX 06-6482-3503）までお問い合わせください。

出展作家

井上裕加里

INOUE Yukari

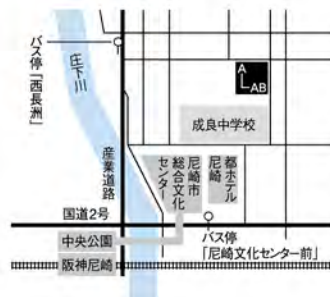


Photo: 志野直

東アジアの近現代に潜在する歴史認識や文化観の差異、そしてそれらの関係性や地域性をテーマに作品を制作している。他者・他国を排除する動きが世界で顕在化している今日、「他者」とは何か、「私たち」と「私たち以外」の境界とは何かを、作品を通じて考察している。主な個展に「Women atone for their sins with death.」(KUNST ARZT, 京都, 2022)「線が引かれたあと」(KUNST ARZT, 京都, 2019)「堆積する空気」(Gallery PARC, 京都, 2017)など。2024年サブリサーチアワード特別賞（加納実紀代応援賞）、2023年第2回白髪一雄現代美術賞、2022年第1回MIMOCOA EYE / ミモカアイ選考委員個人賞植松由佳賞受賞。1991年広島県生まれ。

A-LAB

2025年2月1日（土）—3月30日（日） 開館時間 | 午前10時—午後6時
休館日 | 火曜日（ただし2月11日は開館、2月12日は休館） 入場料 | 無料



住所

尼崎市西長洲町 2-33-1

※会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先

A-LAB | TEL / FAX 06-7163-7108

尼崎市文化振興課

TEL 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

ama-a-lab.com

Facebook @amalove.a.lab

Instagram @alab_amalove

